

第3期丹波市人口ビジョン・ 第2期丹波市丹(まごころ)の里創生 総合戦略について

令和7年6月23日

ふるさと創造部総合政策課

丹波市人口ビジョン・丹(まごころ)の里創生総合戦略とは

丹波市人口ビジョン

本市における人口の現状分析を行い、人口に関する市民の認識を共有し、今後目指すべき将来の方向と人口の将来展望を示すものです。丹波市人口ビジョンは、第3次丹波市総合計画をはじめ、各分野別計画における施策の基礎資料として活用されています。

丹波市丹(まごころ)の里創生総合戦略

人口ビジョンを踏まえて、人口減少や少子高齢化という課題に対し、本市における取組の基本的な方向性、基本目標、具体的な施策を定めるものです。

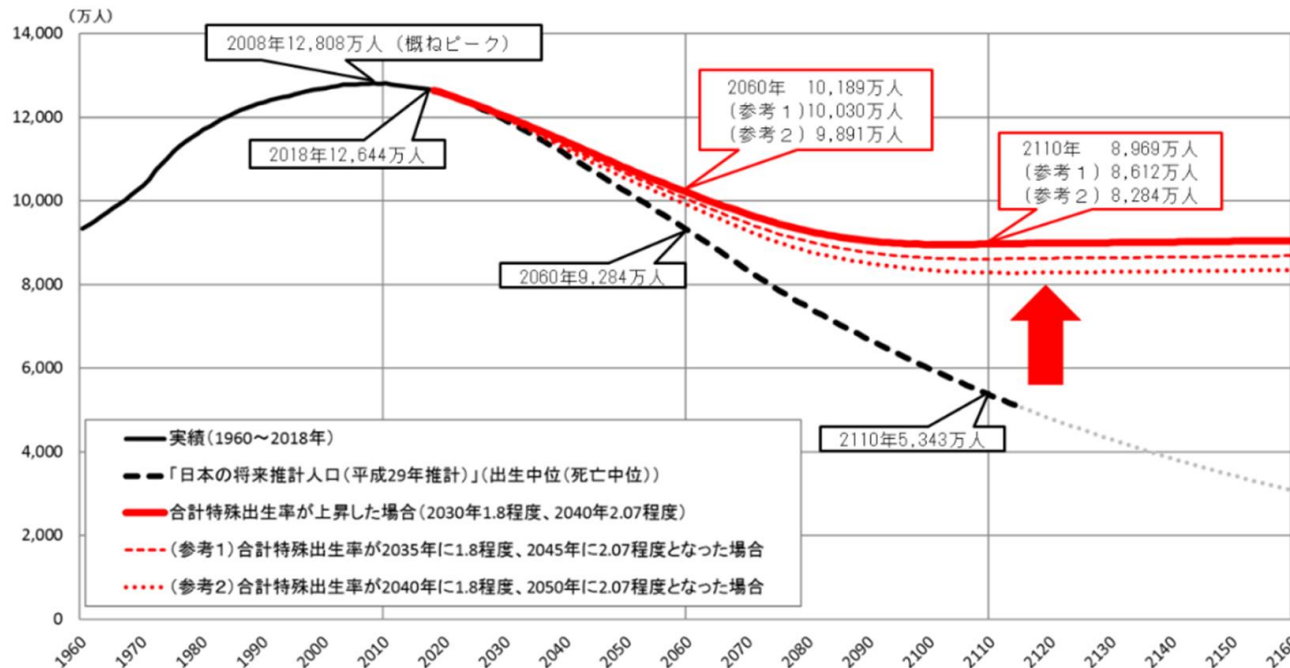
第1部

第3期丹波市人口ビジョンについて

丹波市人口ビジョンの変遷

1 国のまち・ひと・しごと創生長期ビジョンの概要

人口の急速な減少は、将来的には経済規模の縮小や生活水準の低下を招き、究極的には国としての持続性すら危うくするものです。このため、2014（平成26年）年に、日本の人口の現状と将来の姿を示し、人口減少をめぐる問題に関する国民の認識の共有を目指すとともに、今後、目指すべき将来の方向を提示することを目的として、国はまち・ひと・しごと創生長期ビジョンを策定しています。



【出典】まち・ひと・しごと創生長期ビジョン

丹波市人口ビジョンの変遷

2 第1期・第2期丹波市人口ビジョンの策定について

平成27年度に第1期丹波市人口ビジョンを、令和元年度に第2期丹波市人口ビジョンを策定し、人口の現状分析、将来人口推計、目指すべき将来展望人口などについてまとめてきました。

3 第3期丹波市人口ビジョンの策定について

令和6年3月には、令和2年国勢調査結果など直近の人口に関する状況を反映し、より実現可能性のある人口減少対策を導き出すための第3期丹波市人口ビジョンを策定しています。

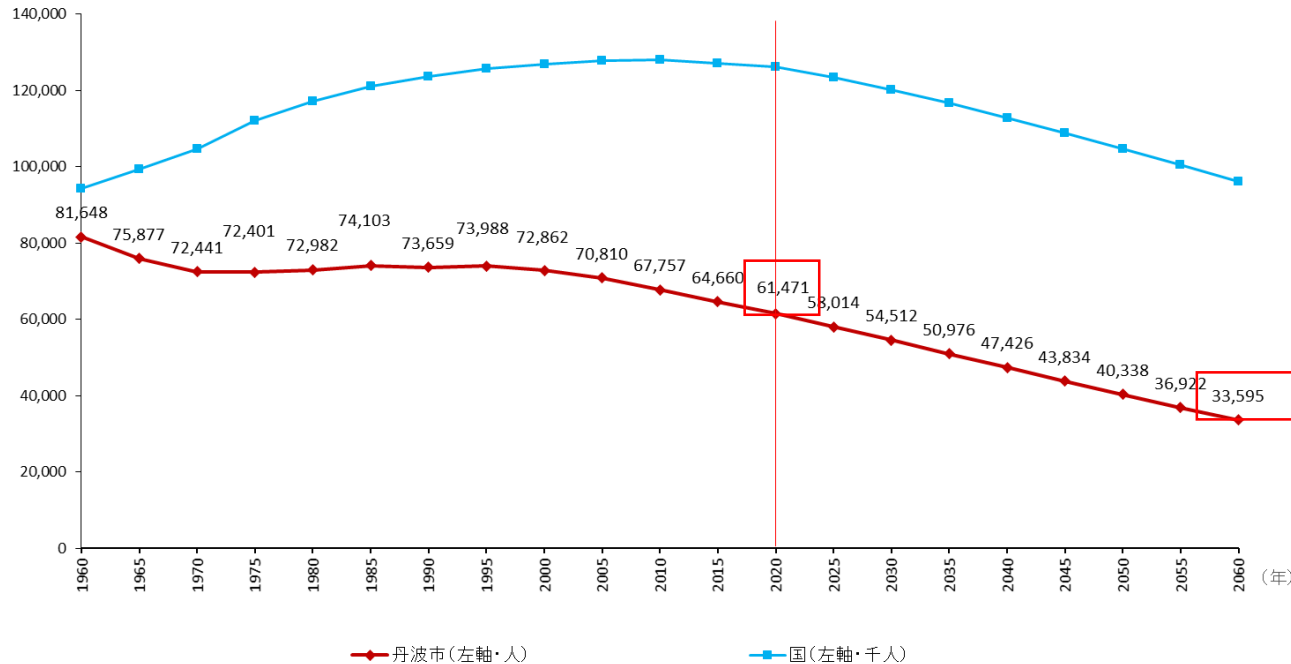
第3期丹波市人口ビジョンの対象期間は、国の目標や他自治体との対比を容易にするため、2060年までとしています。

丹波市の人口の現状と課題

1 総人口の推移と将来推計

本市における総人口は、1995年を境に減少を続けています。現状のまま人口減少が進めば、2020年の61,471人が、2060年には33,595人（約5割減）まで減少することが見込まれています。

丹波市：人／国：千人



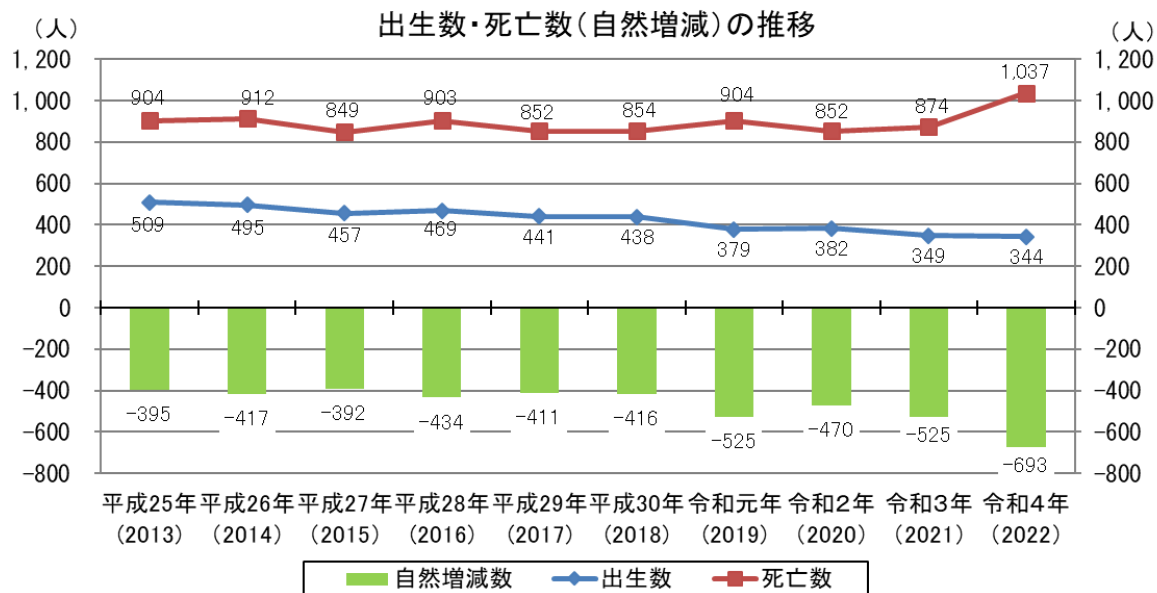
* 2020年以前は、国勢調査結果。2025年以降は、社人研推計準拠に基づく推計値

丹波市の人口の現状と課題

2 出生・死亡(自然増減)の推移

出生数は緩やかに減少が続く一方で、死亡数は増加傾向にあり、2022年には大幅に増加しています。

その結果、2022年は693人の自然減となり、2021年から大幅に拡大しています。



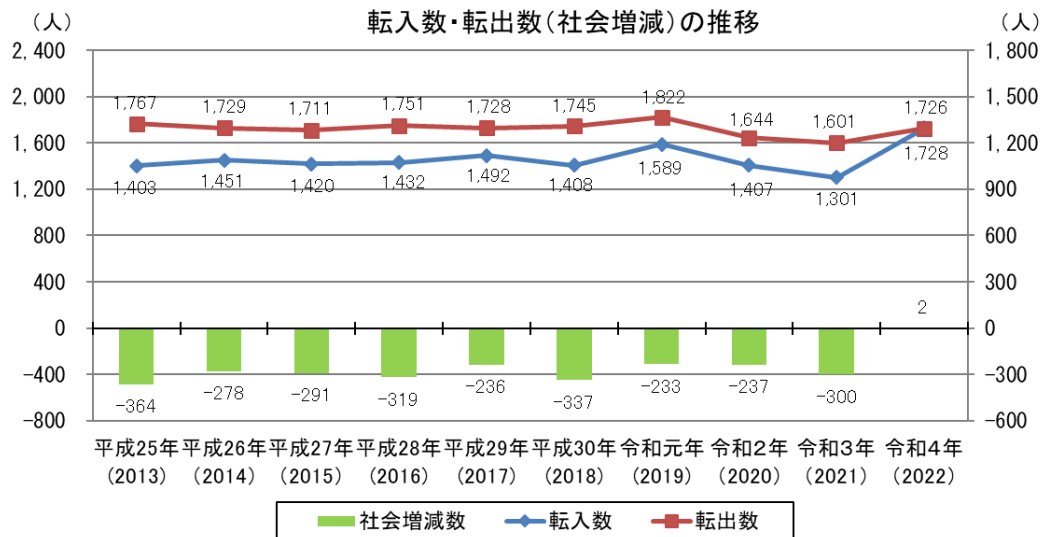
【出典】住民基本台帳を基にした「兵庫県の人口の動き」

丹波市の人口の現状と課題

3 転入・転出(社会増減)の推移

転入者数は、2013年から2019年にかけて緩やかに増加し、2020年から2021年に減少したものの、2022年には1,728人に増加しています。

転出者数は2013年から2018年にかけて横ばい傾向となりましたが、2019年には1,822人に増加しています。転入者数と同様に2020年から2021年にかけて減少しましたが、2022年には1,726人に増加しています。



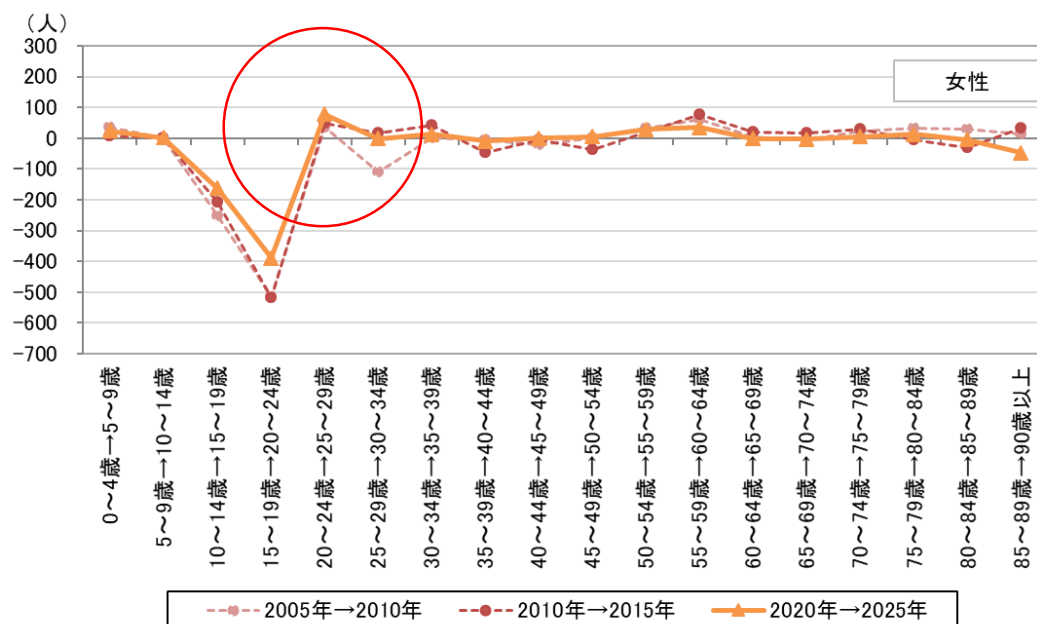
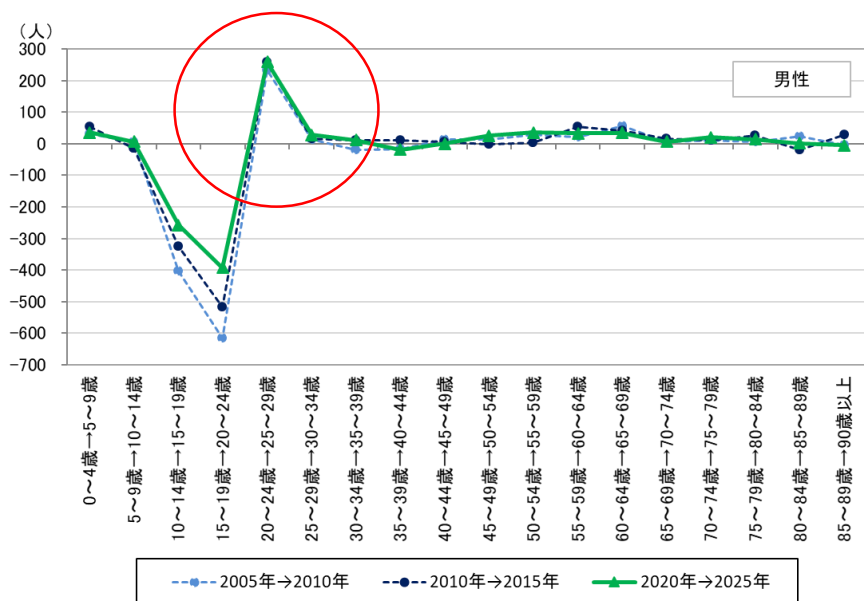
【出典】住民基本台帳を基にした「兵庫県の人口の動き」

丹波市の人口の現状と課題

4 年齢(5歳階級)別純移動数の推移

男女ともに、15歳～19歳→20歳～24歳の減少が大きくなっています。

男性は20歳～24歳→25歳～29歳で増加がみられますが、女性は若干増加しているのみで、男女間で隔たりが生じています。

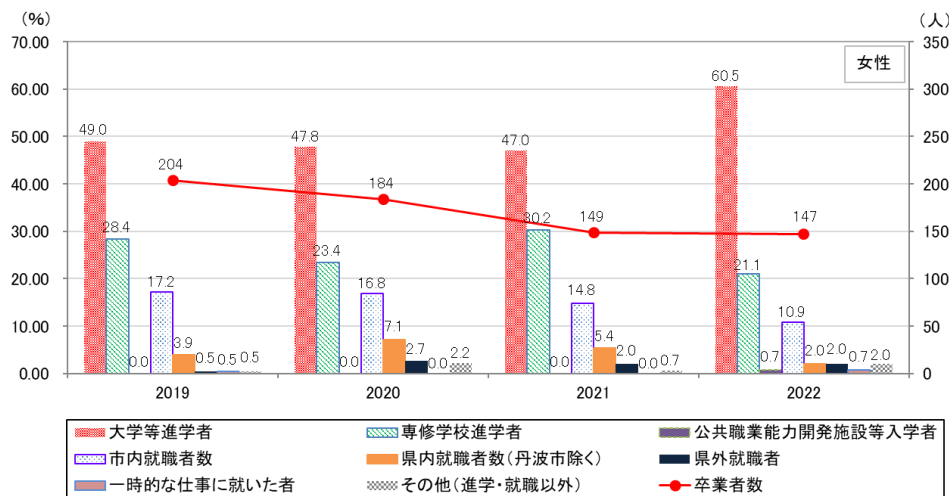
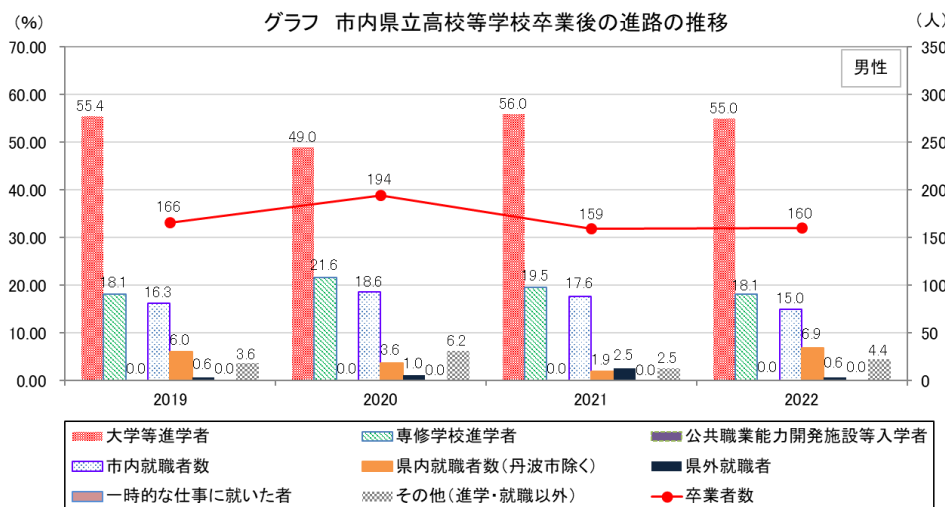


【出典】2010年→2015年までは地域経済分析システム(RESAS:リーサス)、2020年→2025年は内閣府提供「人口動向分析・将来人口推計ワークシート」

丹波市の人口の現状と課題

5 高等学校卒業後の動向

県立高等学校卒業後の進路では、大学・短期大学等へ進む生徒が男女とも約50%を占めています。特に女性の進学者が2021年から2022年にかけて上昇しています。



【出典】市内県立学校への進路調査結果

本市の人口分析から見える課題認識(本市の構造的課題)

1. 高等学校卒業後から大学等卒業後までの年代を除いて、ほとんどの年齢層で転入・転出の数がほぼ均衡しています。
2. 高等学校卒業後の就職・進学期に大きな転出超過がみられます。
3. 大学や専門学校などの高等教育機関卒業後の就職期に転入超過がみられるものの、男性と比較し、女性の転入が極端に少ない状況にあります。
4. 15歳～24歳の合計では、大幅な転出超過となっています。

目指すべき将来展望人口

1 人口減少の対策の視点

- ① ふるさとをつないでいく次世代を育むこと（自然増対策）
- ② 地域活力の中核的な担い手である生産年齢人口を一定割合以上維持すること（社会増対策）

2 目標条件の考え方

自然増：2045年までに、合計特殊出生率が1.80まで上昇し、
その後も維持される。

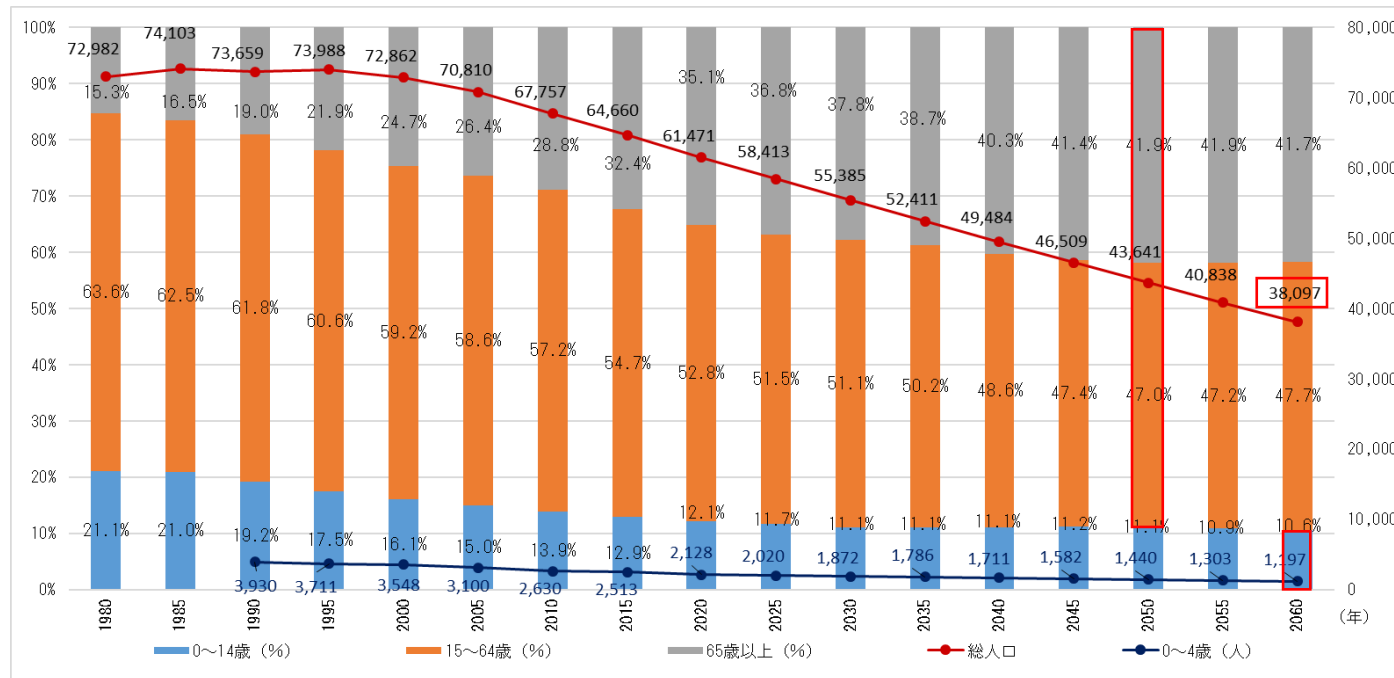
社会増：2040年までに、大学等進学・就職期の社会減の
65%が、20代・30代で回復する。

目指すべき将来展望人口

3 目標条件に基づく推計

2060年の総人口は38,097人

年少人口の水準維持と生産年齢人口は2050年を境に回復基調に
高齢化率は2050年を境に低下



第2部

第2期丹波市丹(まごころ)の里 創生総合戦略について

「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の基本的な考え方とその変遷

1 「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の概要(H27～R04)

①地方創生の目指すべき将来

- 1 将来にわたって「活力ある地域社会」の実現
- 2 「東京圏への一極集中」の是正

②政策の基本目標(4つの基本目標)

〈基本目標①〉稼ぐ地域をつくとともに、安心して働けるようにする

〈基本目標②〉地域とのつながりを築き、地方への新しいひとの流れをつくる

〈基本目標③〉結婚・出産・子育ての希望を叶える

〈基本目標④〉ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくる

「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の基本的な考え方とその変遷

2 デジタル田園都市国家構想総合戦略について(R04～)

①「デジタル田園都市国家構想総合戦略」の基本的な考え方

デジタル田園都市国家構想総合戦略は、人口減少・少子高齢化の進行や東京圏への一極集中が是正されていない状況下において、地域の個性を生かしながら、デジタル技術の活用によって、これまで進めてきた地方創生の取組を加速化・深化させ、地方の社会課題を成長の原動力とし、地方から全国へとボトムアップの成長につなげていくことを目指しています。

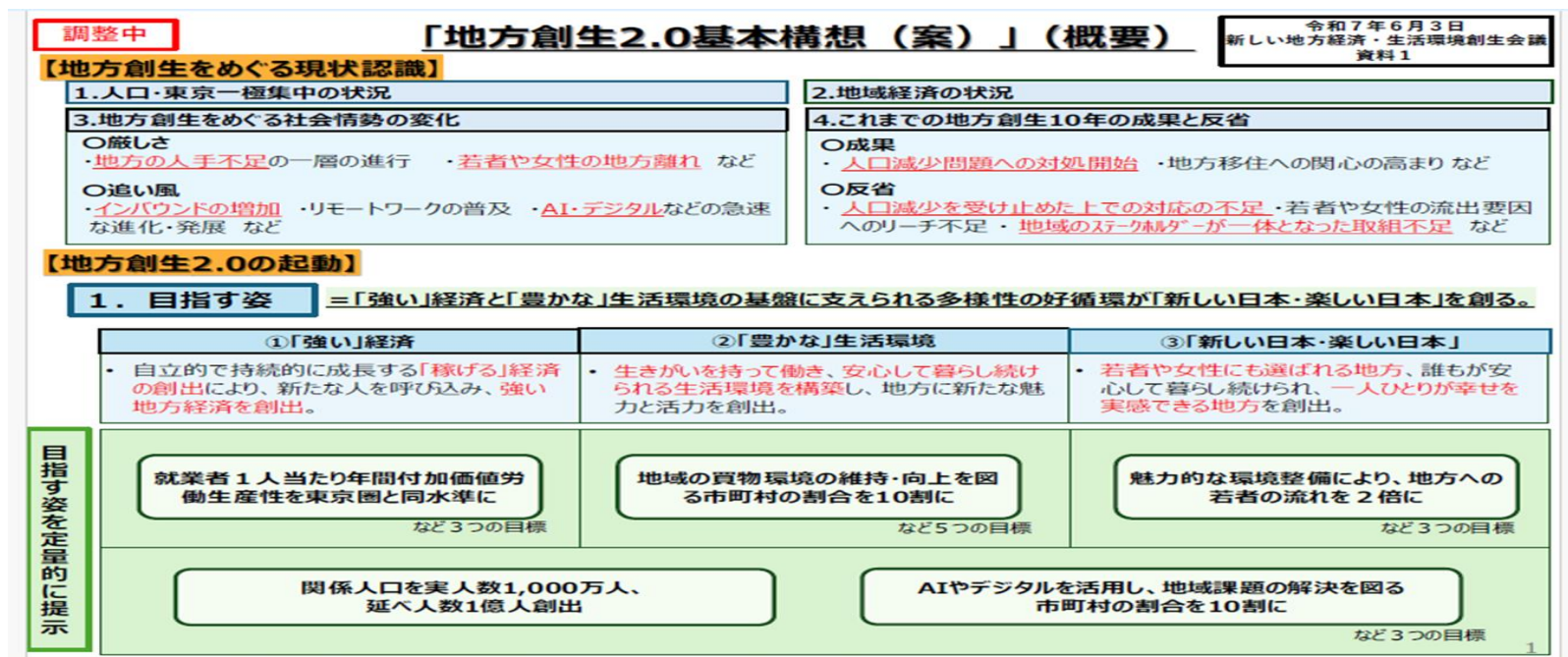
②地域ビジョン(地域が目指すべき理想像)の構築

地方自治体においては、それぞれが抱える地域課題の解決を図るため、地域が目指すべき理想像として、地域ビジョンを構築のうえ、地方創生に向けた具体的な取組を推進していきます。

「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の基本的な考え方とその変遷

3 新しい地方経済・生活環境創生「地方創生2.0」について

国では、これまでの10年間の地方創生の成果と反省を踏まえ、人口減少を正面から受け止めたうえで、国や地方、産官学金労言士等のステークホルダーが一体となって、**「若者や女性にも選ばれる地方」**を目指す「地方創生2.0」を起動させるとともに、具体的な取組をまとめた総合戦略を令和7年度中に策定することとしています。



本市における策定状況について

1 策定の状況

丹波市では、国の動向等を勘案し、平成27年度(2015年度)に第1期丹波市丹(まごころ)の里創生総合戦略を、令和元年度に第2期丹波市丹(まごころ)の里創生総合戦略を策定し、本市の活力ある地域社会の形成に向けて、人口減少や少子高齢化に関する取組を進めてきました。

2 計画の期間

第2期: 令和2年度～令和7年度(6年間)

3 計画の進行管理

- ・重要業績評価指標(KPI)の設定
- ・PDCAサイクル(計画策定(Plan)、推進(Do)、評価(Check)、改善(Action)のサイクル)の確立

2060年の丹波市のまちの姿

2060年の将来像

「市民一人ひとりが個性と持てる力を発揮し、持続的に発展するまち」

ゴール①

人口減少に歯止めがかかり、人口構造が安定してきた

ゴール②

市民の多くは、長年住み慣れた地域でいきいきと暮らしている

ゴール③

様々なつながりによって担い手が増え、誰もが活躍している

基本目標の設定

4つの基本目標

〈基本目標①〉

希望が叶い、みんなで子育てを応援するまちをつくる

〈基本目標②〉

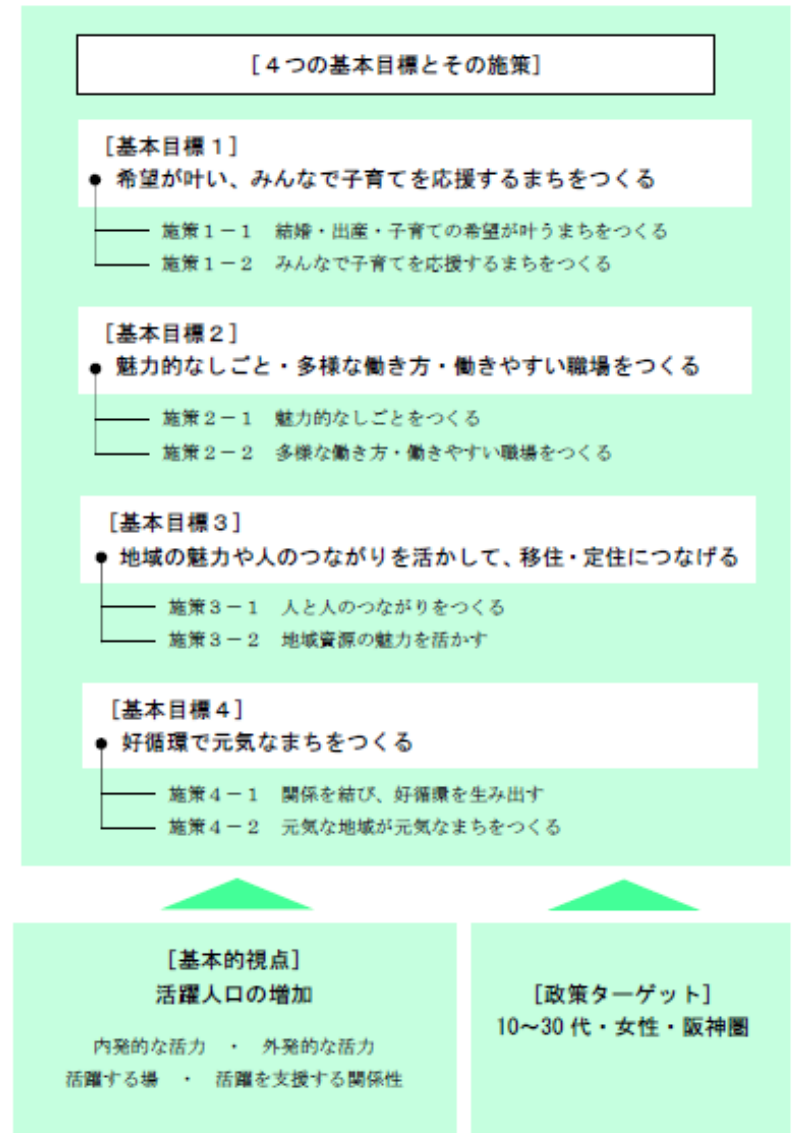
魅力的なしごと・多様な働き方・働きやすい職場をつくる

〈基本目標③〉

地域の魅力や人のつながりを活かして、移住・定住につなげる

〈基本目標④〉

好循環で元気なまちをつくる



基本目標と施策の方向性

基本目標 1 希望が叶い、みんなで子育てを応援するまちをつくる

数値目標 合計特殊出生率（ベイズ推定値）
1.66（2008～2012年）→1.72（2023～2027年）

- ・ 施策1-1 結婚・出産・子育ての希望が叶うまちをつくる
- ・ 施策1-2 みんなで子育てを応援するまちをつくる

基本目標 2 魅力的なしごと・多様な働き方・働きやすい職場をつくる

数値目標 25歳～44歳の女性の就業率
79.4%（2015年）→82.0%（2025年）

- ・ 施策2-1 魅力的なしごとをつくる
- ・ 施策2-2 多様な働き方・働きやすい職場をつくる

基本目標と施策の方向性

基本目標 3 地域の魅力や人のつながりを活かして、移住・定住につなげる

数値目標 丹波市に住み続けたいと感じる市民の割合
71.6%（2018年）→80.0%（2025年）

年間観光入込客数

226万人（2018年）→270万人（2025年）

- ・ 施策3-1 人と人のつながりをつくる
- ・ 施策3-2 地域資源の魅力を活かす

基本目標 4 好循環で元気なまちをつくる

数値目標 地域活動が活発化していると思う市民の割合
41.5%（2018年）→56.5%（2025年）

- ・ 施策4-1 関係を結び、好循環を生み出す
- ・ 施策4-2 元気な地域が元気なまちをつくる

基本目標ごとの主な取組

基本目標 1 希望が叶い、みんなで子育てを応援するまちをつくる

- ・ハッピーバース応援ギフト事業/公園整備方針の策定及び施設整備

基本目標 2 魅力的なしごと・多様な働き方・働きやすい職場をつくる

- ・就職運営サイト「キャリアたん」の運用/Bizステーションたんばの機能拡充

基本目標 3 地域の魅力や人のつながりを活かして、移住・定住につなげる

- ・丹波市ふるさと移住方針に基づく各種奨励金制度の創設/ふるさと住民制度の活用

基本目標 4 好循環で元気なまちをつくる

- ・ラジコン式草刈機による実証実験/市民プラザによる地域支援や男女参画の推進

総合戦略の成果

成果①

令和2年国勢調査結果が目標人口を概ね維持
目標人口:61,573人 → 国勢調査結果:61,471人

成果②

市制発足後、初めて社会増の達成(令和4年)
転出者:1,726人
転入者:1,728人 → 2名の社会増

成果③

消滅可能性自治体からの脱却(若年女性人口の減少率の改善)
減少率:50.4% → 48.7%に改善